

共通目標の構築による 課題解決型 コミュニケーション



『ポリネコ!』の 背景①-④

- ・解決すべき社会課題
さまざまな立場の違いを超えて、国民的議論、地域を挙げた議論を行うコミュニケーションが存在しない
- ・課題解決のための仕組み/サービス
『ひとりひとりが対等な関係で参加し、データやファクトを踏まえて責任を持って意思表示し、相互参照できる』
信頼構築のコミュニケーション
- ・仕組み/サービスが必要とされる必然性
SDGs、Society5.0、DX、改憲、ポストコロナウイルスへの対応など、国民的議論、地域を挙げた議論の実現が急務

誰もが、いつでもどこでも社会課題について知り、学び、考え、意思表示することで国民的議論、地域を挙げた議論を実現する
課題解決型輿論コミュニケーション=『ポリネコ!』（複数の特許に基づく新しいデジタル民主主義コミュニケーション）

① 分断されている私達

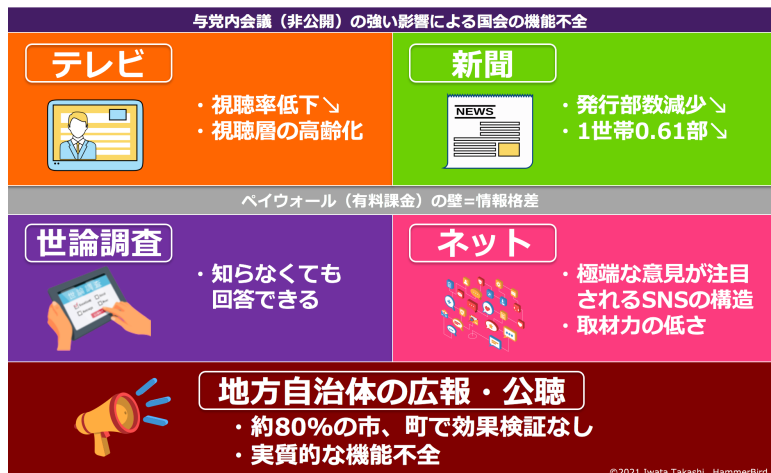
社会の分断が進み、立場を超えた意思の疎通が困難に。社会が目指す形、共通目標の確立が、できません。



社会にヴィジョンが共有されない
政治-国民間で『信頼』が育まれない

② 機能不全のメディア環境

テレビ、新聞の社会への影響度は低下しており、回答者が問われている事象の背景を知らなくても回答できる世論調査が民意となる等、社会課題をじっくり考える環境そのものが、社会にありません。



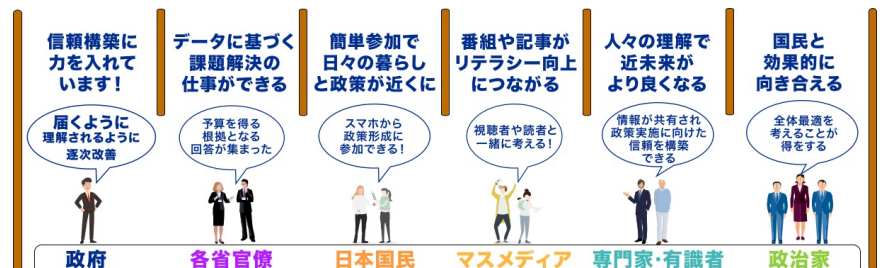
③ 誰もが参加できる1つの場所

そこで、『ポリネコ!』を提供します。現在の情報環境ではバラバラである立場の異なる人々が1つのコミュニケーションに、メリットを得つつ参加できます。



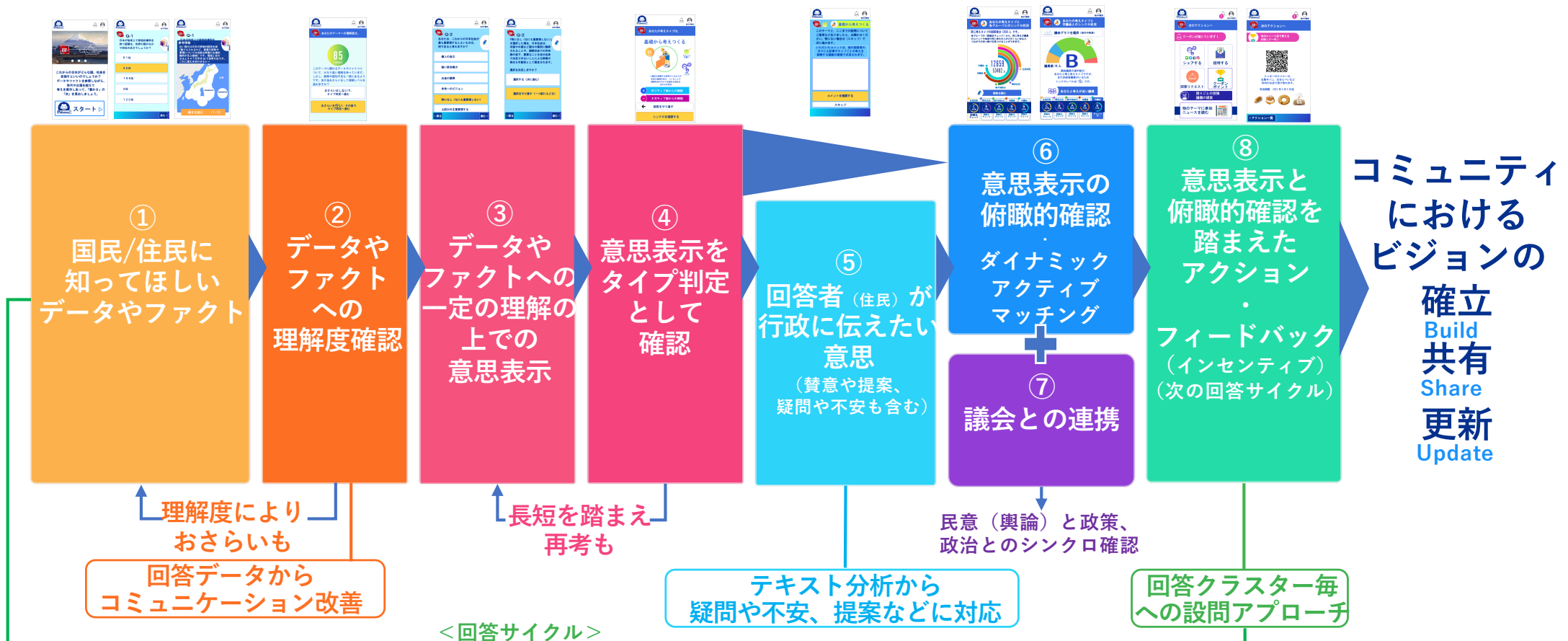
④ 相互理解が進む私達（社会）

すると、データとファクトに基づくお互いの考え、意思を知ることができるようになります。この体験を重ねることで、社会課題の解決や共通目標=ビジョンの確立が、可能になります。



社会にヴィジョンが共有される
政治-国民間で『信頼』が育まれる

- 『ポリネコ!』では、記事や動画を読み、視聴し(①)つつ、回答プロセス(②-④)で意思表示することができます。
- 他の回答者の回答も相互参照すること(⑥)ができ、国会や地方議会とのシンクロ率を確認すること(⑦)ができます。
- このプロセス(⑧)によって、データやファクトを踏まえた輿論による国民的議論、地域を挙げたコミュニケーションが実現できます。(特許取得済み)
- 従来のニュースでは、記事や番組を読んだり視聴することに留まります。情報の受け手(購読者、視聴者)が社会課題の解決に参画することができない技術的境界を『ポリネコ!』によって克服することができるようになります。
- 利用者は、政策や社会課題ごとに自分と同じ考えの政治家や支持層の状態を確認し、エビデンスを踏まえた上での建設的な交流ができるようになります。



実在性が担保された匿名回答(性別、年代、居住エリア、回答履歴)